

ティーチング・ステートメント

所属 北海道科学大学 薬学部

名前 坪和 幸司

作成日 2020年12月18日

【責任】

基礎薬学部門 医薬化学分野に所属し、専門とする有機化学を基軸として、薬局管理・経営やIT・WEBおよびマーケティングに係る資格・経験を教育・研究に展開している。主たる教育活動は、化学関連科目(一般化学・有機化学)、臨床薬学実習、ゼミ生の研究・進路指導、学生支援センター、薬学教育評価、高校・大学サイトマネジメント、リメディアル委員会である。

【理念】

薬剤師には、患者との信頼関係を構築するコミュニケーション力や個々の悩みや問題を解消に導く課題発見・解決能力が強く求められる。また、我が国の高齢化率上昇に伴い、複数の基礎疾患をもつ患者に対して、専門的な知識・技能を統合・実践し、かつ他の医療職と協働して最適な医療を提供できる人材の育成は大学教育における喫緊の課題である。さらに、AIの急速な進展・普及が医療の高度化・多様化を加速する昨今、生涯にわたり研究と修養に努める力が不可欠である。これらはいずれも、自身のキャリアを切り開くだけでなく、心豊かで充実した人生を送る為にも基盤となる能力である。従って、学生が自ずと上記能力を習得し、かつ高度な専門性を身につける一助を担う教育を提供したい。特に、科学的視点を有する専門職としての役割を主体的に果たすことができる人材の育成に注力する。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、教育においては「**基盤能力の向上と他者と協力して目的を達成する力**」「**自らを律し、学び続ける力**」「**課題発見・解決能力**」「**薬剤師としての専門的な知識・技能・態度**」「**科学的な視点**」の習得および「**後進の育成**」等に注力している。また、学習の定着を推進するために、近縁科目の担当教員と講義・実習内容や成績評価を積極的に共有し、適宜授業内容に反映することで学生の知識・技能の定着を図る。

基盤能力の向上と他者と協力して目的を達成する力：授業区分ごとに、学生自身が友人や先輩と相談して解決する課題を提示することで共同学習を促し、コミュニケーション力に代表される基盤能力の向上と、自分の力だけでは解決できない場合に、身近な他者と協力して目的を達成する力の育成を図る。これにより、将来、薬剤師としての使命を果たす上で必須となる、他の医療職と連携・協力して問題を解決する姿勢を身につけてもらう。

自らを律し、学び続ける力：10～15分毎に、受講していれば簡単に解答できる問題を提示することで、やればできるという自己効力感を高め、毎日の生活で少しずつ学び続ける習慣

を身につけてもらう。また、理論計算を基盤とするインシリコ創薬について、入手容易な無償ソフトウェアを利用する教育・研究を実施することで、生涯にわたって最先端技術を独力で学習することができる環境づくりに取り組んでいる（2023年度 教育改革推進費）。

課題発見・解決能力の取得：要所で実演やCG・アニメーションを組み込んだ講義・実習を展開することで、学生の授業に対する集中力を維持すると共に、重要なポイントへの気づきを促して要点を掴む力を育む。また、講義資料や演習課題・発展問題をWEBにアップロードすることで自己学習の機会をつくり、自ら課題を発見・解決する力を修得する機会を設ける。

薬剤師としての専門的な知識・技能・態度：専門科目の一般化学・有機化学では、適宜、薬物の化学的性質と薬物療法や薬学的管理との関係について取り上げる。また、実際に医療現場で発生したアクシデント・インシデントを紹介することで、学生の興味を惹きつけるとともに、専門知識の有用性を実感してもらう。また、スマートウォッチを利用した臨床研究の実践により、身近なツールを利用することで患者QOLを向上できることを体感してもらう。

科学的な視点：ほとんどの学生が知っているであろうことを題材として、授業区分に関係する科学的な疑問を投げかけ、あたり前のことと認識している事象についても、理解が十分ではない事柄があり、科学的根拠に基づいて考察する習慣を身につけることが肝要であることを実感してもらう。更に、薬物が分子レベルでどのように作用するのかを可視化するソフトウェアを利用して臨場感のある講義・実習を行うことで、科学的な興味・関心を醸成する。

後進の育成：（**薬剤師として**）学年を横断する活動の推奨や卒業研究における下級生指導を通じて、就職後に必要とされる後進育成に係る能力を育む。また、適宜キャリアコンサルタントに係る講習会を受講し、適切なカウンセリングを可能とするスキルの向上に努めている。（**研究者として**）自身の研究者としての実体験を共有することで、夢や目標をもつことの重要性を説き、将来の大学教育・研究を担う人材育成や薬学分野全体の発展を図る（2023年度 ひらめき☆ときめきサイエンス、
中学高校における模擬講義・実験、年5回程度）。

【評価・成果】

- 授業アンケートのほとんどの項目について、「そう思う」と「非常にそう思う」の合計が90%を超え、定期試験の平均GPAが大きく向上した。
- 講義（あるいは近縁科目）に関する質問が多数（四半期につき百数十件程度）寄せられ、学生のコミュニケーション力と学習意欲の向上に成功した。

【目標】

- アンケートの目標達成度の「非常にそう思う」30%以上を目指す（2023年）
- 関係科目の担当教員との連携を強化し、科目間の連携を強化する（2024年）
- 将来の医療・大学研究を担う人材育成に資する教育の実施（2025年）